

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を作りあげ、玄関に掲示している。		利用者を肉親と思い、ぬくもりのある生活に加え生甲斐作りを心がける。
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝朝礼前に、理念の読み合わせを実施。		自分の肉親ならどうするのかを職員に尋ねながら取り組んでいきたい。
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	1. 玄関正面に理念を掲示し、どなたでも目に入るようにしている。 2. 契約、推進会議時に説明している。		今後も利用者家族、地域の人々とふれあいの浸透をより深く築いていきたい。
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	1. 積極的な挨拶をしている。 2. 防災訓練等に参加して頂いている。 3. 行事の誘い、手作りお菓子配りをしている。		庭に寄合所を設け、散歩などのときに気兼ねなく腰掛けて休んでもらえるよう工夫をしたい。
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	1. JA田中さんのお祭り、農業祭など地域の人々が多く集まる場所への参加。 2. 小学校、中学校運動会の見学。		1. 地域ボランティアの方の協力を得て20年1月より町内会加入決定している。 2. カルチャー教室参加を試みる。
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	元歌手のミニコンサート、手品師マジックショーなどに近隣の高齢者の方を招いている。		檀家役員会に参加(毎回ではない)し、高齢者の暮らしの役立ちについて話し合っている。役員から檀家へ紹介をして頂く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価を実施することで、職員の意識改革と生活の質の向上に繋がり、再度サービス提供内容の確認がとれる。		外部評価での改善事項の指摘は直ちに職員と話し合い、改善の再確認をしサービスの向上に努めていきたい。
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外部評価結果報告をし、指摘事項について意見を頂いている。また職員ミーティングにて意見を参考にして話し合っている。		意見や改善したことなどぬくもりの家便りに取り上げ、利用者家族や近隣住民の方へお知らせしている。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族会や防災訓練等にも参加して頂くお知らせをしている。また高齢者支援課、生活支援課へ積極的に相談をする様にしている。		1. NPO法人柏市グループホーム連絡会へ出席頂き指導を頂いている。 2. 高齢者支援課研修会へ出席している。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	千葉県高齢者権利擁護研修に出席している。		今のところ実例がなく、意識が薄いところがある。より多くの職員へ研修を受講させていきたい。
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	1. 千葉県高齢者身体拘束研修を受講。 2. 会話の中に言葉の暴力や拘束が無意識に出てしまうのを職員同士で注意し合っている。		利用者が外泊などで自宅で過ごしたときなど、戻られたときに楽しかった事や不都合が無かったかを会話から聞き出す。
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし質問を受け納得して頂き、同意を得ている。		不安や相談は入居後も必要があれば、いつでも対応している。
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	推進会議等にも出席して頂き、利用者側からの意見、不満、苦情を聴いている。		利用者側からの希望などは、共同生活住居では困難だという考えをなくさせる。
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	1. 往診結果や近況報告は書面にてお知らせしている。面会時に質問や疑問を伺っている。 2. 月1回、ぬくもりの家便りを発行している。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	1. 公的機関の苦情受付を説明している。 2. 家族会へ包括支援センターの出席。		玄関先へ苦情箱を設置している。
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見書や稟議書を用意し、何でも意見提案を出来る様にしている。		Eメール・携帯アドレスを知らせ、直接話せないことも、受け入れられる工夫をする。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	1. 短時間サポートなどの協力を得ている。 2. 事業所側だけでなく、職員側の都合も協力している。(お互い助け合いの精神)		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1ユニット専業の為移動はないが、離職に関しては職員の希望を出来るだけ受け入れ、必要最小限に努力している。		
5.人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や講習費用は事業所負担とし、出勤扱いとしている。また福祉専門学生を受け入れ職員全員でサービス向上を目指している。		事業所内研修は専門講師を招いて回数を増やしたい。またビデオによる研修も増やしたい。
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1.年に1~2回、職員交流会に出席している。(NPO法人柏グループホーム連絡会主催) 2.市外のグループホームより職員訪問あり。		相互訪問等の活動は今のところ来訪を受けるのみであり、今後こちらから訪問をする回数を増やしていきたい。
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	1.公休日は希望制にしている。 2.個人面談をし要望を聞いている。		1.休憩室が狭い為、工夫したい。 2.慰安旅行を実施できる用努めたい。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力や実績は日報または管理者より報告がなされ、勤務状況も把握している。		特別手当、時給アップ、表彰状など努めていきたい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人宅(病院)へ伺いもしくは来訪して頂き、不安や悩みを聴き、希望は出来る範囲内で応えられるよう努力している。		今までの生活歴を十分考慮し、グループホームでの生活に取り入れていけるよう努力したい。
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前の悩みや相談を伺い、グループホームでの生活でそれらが少しでも緩和もしくは解消できればという気持ちで受けとめている。		入居に至らない場合でも、悩みや相談はいつでも何う旨を伝えている。
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の心身の状況や家族の生活状況によっては、他のサービスを勧める様にもしており、紹介をする努力をしている。		利用者と家族のニーズを理解し、必要としている支援を提供できるよう努力していきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	何度でも来訪して頂き、同じ趣味をもった利用者と会話をしたり、レクリエーションに参加して頂いたり、家族にもそれを見て頂いている。		利用者と家族の体験入居ができ、グループホーム生活の様子を伺えるようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	今までの生活で培ってきたことを一緒に色々な作業等を行うことで、教えられたり教えたりしている。		生活をしていく上での生きがいを持てるよう努力していきたい。
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を年2回開催、日帰り旅行参加、コンサート参加、家族による料理教室を実施。		今後も家族主催の催し物を増やしていきたい。
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者から家族へ年賀状を、特別な日は家族一緒に過ごせるよう努力している。		利用者と家族双方の問題はとても複雑な場合もあるが、出来る限り協力したい。
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しいお友達の来訪もあり、馴染みの場所には外出する機会を設けている。		回数はあまり多くないので増やしていきたい。
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	同じ趣味をもったレク援助や、介護度の高い人を低い人が支えていく雰囲気がある。		聴力・言語障害(多少)者の利用者同士の関わりに工夫をしていきたい。
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	必ず家族や介護関係者と会うので、近況を伺っている。また入居に至らなかった家族がボランティアで踊りに来ている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や意向を見出しケアプランに活かせる努力をしている。		意思表示の弱い利用者でも会話の中から何かを見出す努力をしていく。
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式により家族に情報提供を協力して頂いている。		会話からも情報が得られる場合があり、コミュニケーションを大切にしていきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	家族から生活歴、本人の生活行動・会話から心身状態・残存機能の把握を努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人のニーズから課題を見出し、意見やアイデアを出し合い総合的に介護計画を作成している。		介護過程を見直していきたい。(ニーズと生活課題)
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に一度評価と見直しをしている。対応できない変化が生じた場合には随時ケアプランの見直しをし家族の同意を得ている。		家族への話し合いや同意を得ることはできても、本人への話し合いや同意が得られない場合がある。努力したい。
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録やケアプランは、個人別に管理している。ケアカンファ時は担当者以外からの意見も参考にし、情報を共有している。		ケアカンファレンスをもっと充実したものにしていきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	その時々々の本人や家族の要望に出来る限り応じられるよう柔軟な支援を努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	教育機関との関係が薄い。		21年度の介護実習施設(短期間)を松戸の高校から依頼をうけ承諾する。
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	連携は取れているが、他のサービスを利用するに至っては転居を考えての支援となり、その場合には協力をしている。		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの北部地区担当者に、運営推進会議に出席して頂き、相談している。		地域包括支援センター ケアマネジメント研修に出席している。
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の往診を月2回受けているが、今までのかかりつけ医にも診てもらえるようにしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医の受診や職員の相談ができるようにはしているが、協力病院と異なる。		病院が異なるため、服薬の処方と取扱いに注意したい。
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	往診に来ている看護師、地域病院の看護師とは気軽に相談できるよう配慮を頂いている。		協力病院通院時には、往診看護師が診察終了まで付き添う場合がある。
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院へは24時間体制をとって頂いており緊急の入院にも対応している。また医事課やソーシャルワーカーとも連携がとれている。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ソーシャルワーカーを通じて医療関係者と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。		看護職員の配置を検討していきたい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ターミナルケアは取り入れていない為、協力病院の協力を得ている。		1. 看護職員の配置を検討していきたい。 2. ターミナルケアを取り入れるのには時間が必要、今後検討をしていきたい。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	本人や家族と十分な話し合いをし、他のケア関係者との話し合いや情報交換をしている。		場合によっては、医療関係者にも話し合いに出席して頂いている。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけや対応については職員同士で注意し合っている。記録管理は施錠を徹底。		気がつかない言葉の拘束や暴力に注意していきたい。
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	必ず、何をするか説明をし本人で自己決定をして頂き同意を得る努力をしている。		自己決定をして頂くことに理解は得ているが、「…しましょう」の言葉かけが多い。注意していきたい。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活予定は決まっているが、強要はしていない。予定外での入浴可、ずれた時間での食事可、レクへの自由参加等。		職員の休憩時間等で希望に添えないこともあるが、出来る限り支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	化粧マニキュアなど、多少だが支援している。理容美容は訪問利用だが、他店可である。		家族からの被服や化粧品提供に協力を頂けるようお願いしたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は心身の観察をし出来る範囲内で一緒に準備や片付けをしており、外食も取り入れている。		利用者にとって食事は大きな楽しみの一つ、好みのメニューが提供出来るよう努力していきたい。
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の好みのものや嗜好品については、制限していない。		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるように支援している	生活記録を取ることによって、一人ひとりの生活パターンを把握し自立出来る様支援している。おむつは最終決断と考える。		大型施設でのおむつ利用者のように、排泄時間や交換時間は決めていない。常に観察をし対応している。
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本の利用曜日は決まっているが、予定以外の曜日でも入浴可である。19時30分以降は職員の配置上、入浴は困難である。		出来れば、22時までの入浴可を検討したい。
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活にメリハリをつけるために起床や就寝への声かけはしているが、強要はしていない。		基本的に自由に自己決定にしている。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家族への協力を得て支援しているが、出来ないこともある。新しい興味の発見に心がけている。		出来る限り、本人の希望に沿える様支援していきたい。
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物等へは、本人が支払出来るように準備していくが、お金を所持している利用者は少ない。(家族希望者が少ない)		お金を所持していない利用者は、一時立て替えで対応している。入居時には、家族へ希望を伺っている。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出は自由である。個人別でも可能な限り支援している。		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	出来る範囲以内で支援している。		遠方の故郷へ行きたがってる利用者があり、現在検討中。
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は自由である。(家族の同意を確認したうえで)		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽にお知らせ無しで来訪可能にしており、居室・リビング・庭どこでも使用可。		食事時間であれば、一緒に食事をして頂ける準備もしている。
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	千葉県高齢者身体拘束研修を受講している。マニュアル及び法令書類を準備しており、職員に周知できている。		1. 現在まで、身体拘束の実例は無し。 2. 気がつかない言葉の拘束についての取り組みを徹底していきたい。
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は鍵は付いていない。深夜帯を除き、玄関の施錠はしていない。		掃き出しのある居室については、その部分のみ転落防止のため深夜帯施錠。
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	利用者のプライバシーについては、十分な注意を払い様子についても把握している。		ホーム内にプライバシー保護について掲示しており、職員周知に努めている。
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	何故危険なのかを説明し、同意を得られた場合は預かるが、様子を見る場合もある。		火災の原因に繋がるものや、刃物については説明をし同意を得て預かっている。
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急連絡体制や訓練を実施し、事故防止に取り組んでいる。		転倒骨折者が出ており、ヒヤリハット・見守り強化をしていきたい。
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	講習や訓練は定期的に行っている。		救命講習についてはまだ全員ではない為、随時受講を計画している。
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間対応は、すぐ対応できる距離に職員配置されている。地域住民の協力を得ている。(近隣4世帯より協力を得ている)		近隣の方にも防災訓練に参加して頂いている。

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	入居時やADLの変化があった場合に、家族へ十分な説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	普段のADLや平均的なバイタルを把握し、体調変化や異変の発見に努めている。		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は施錠管理とし、処方箋を一緒にしており理解できるようにしている。服薬の支援と確認、症状の変化に十分注意している。		薬剤師からの説明や、薬剤師へ職員から相談を受けられるようにしている。
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給や繊維質の食物摂取、歩行運動や体操の取り組みをしている。		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアを実施している。残存機能を活かし、出来ないことを支援している。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは、高齢者メニューの食材を業者から仕入れている。		食べる量や水分量は、生活記録でチェックしている。
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症の研修を受講しており、予防接種の実施、衛生管理者を配置している。		衛生管理者による所内研修を増やしていきたい。ホーム内消毒を実施している。
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具はハイター、乾燥消毒をし、食材は毎日仕入れを実施している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1)居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関は開放的で道路側にあり、いつでも安心して出入りできる。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関は明るく廊下には天窓を設置、居間は南向きの掃き出しで食堂台所と隣接、浴室も明るくバリアフリー、トイレは全てウォシュレットを完備している。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間には一人になれるところはないが、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みの制限はしておらず、使い慣れたものや好みのもを用意して頂くようにしている。		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気扇はないが、風通しは良い。所々へ炭を置き防臭に努めている。また殺菌性のある空気清浄機を置いている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	完全バリアフリーになっており、一般家庭で使っている設備になっている。		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	わかる説明と同意を得、失敗があっても失敗とせず、自立支援を努力している。		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小さいが花壇や野菜畑もあり、テーブル椅子で休める。裏庭は高く見渡しがよい。		

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者がころへ出かけている <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ほとんどいない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
自己評価	外部評価	タイトル	
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/> ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 数日に1回程度 <input checked="" type="radio"/> たまに <input type="radio"/> ほとんどない
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> 大いに増えている <input type="radio"/> 少しずつ増えている <input type="radio"/> あまり増えていない <input type="radio"/> 全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ほとんどできていない